



病弱教育推進に向けた取組について

本校に配置されている病弱教育アドバイザーによる支援と本県の病弱教育の現状について、今年度の取組を基に紹介します。



秋田県の病弱教育の現状

病弱教育アドバイザー 進藤 忠雄

1 秋田県における病気の児童生徒の状況

(1)慢性疾患で継続的な医療が必要（H26特別支援教育課調査）

小学校1563人 中学校643人 計2206人

(2)病気やけがで長期欠席（H29秋田県の学校体育・学校健康教育資料集）

小学校82人 中学校96人 全日制高校74人 定時制高校17人

特別支援学校26人 計295人

(3)精神疾患（神経症、うつ病、統合失調症等）133人（ 〃 ）

(4)心身症（摂食障害）29人（ 〃 ）

(5)高等学校に在籍する病弱・身体虚弱生徒の実態調査（H30特別支援教育課）

慢性疾患等の生徒在籍46/60校 慢性疾患等で配慮必要な生徒在籍28/60校

慢性疾患等に該当する生徒373人 慢性疾患等で配慮必要な生徒66人

⇒高等学校生徒支援は全国的に大きな課題

2 病気の児童生徒への教育の場

(1)病弱特別支援学校

・秋田県立秋田きらり支援学校 中通総合病院への病院訪問教育

・秋田県立ゆり支援学校 由利組合総合病院 院内学級

・秋田県立ゆり支援学校道川分教室（国立病院機構あきた病院への病院訪問教育）

(2)病弱特別支援学級設置校

小学校14校 中学校5校 秋田大学病院院内学級2校（広面小、城東中） 計21校

⇒ほとんどの児童生徒は通常の学級に在籍

3 病弱・肢体不自由教育推進事業（H30秋田県教育委員会事業）

(1)病弱教育アドバイザーによる病弱教育への支援

(2)通常の学級や病弱・身体虚弱特別支援学級に対する相談活動

(3)高等学校における病弱・身体虚弱生徒の現状把握と支援体制構築

(4)「通級による指導」による支援体制の実践モデル

病気の児童生徒への教育支援

◇病気療養児の教育の意義（H6文部科学省通知「病気療養児の教育について」）

- ①学習の遅れの補完や学力の保障
- ②積極性、自発性、社会性の涵養
- ③心理的安定への寄与
- ④病気に対する自己管理能力
- ⑤治療上の効果

◇病気によって奪われるもの（昭和大学准教授副島賢和）

安全感 自由 自主性 仲間 愛着形成 教育

「病気によって 患者となり 子どもでなくなる

教育によって 患者から 子どもにもどる」

実践紹介⑦ 小学部 遊びの指導 (合わせた指導を主としたグループ)

小学部1・2年の遊びの指導では、次のことを大切にしています。

児童の主体性

児童の“やりたい”をもとに、「かくれんぼ」や「逃走中(制限時間内に課題を解決しながら宝を探す)」をしています。



遊びながら、もっと面白く遊ぶために必要なルールを考えたり、自分の身体の動きに合わせて道具を工夫したりして、場の設定や時間の保障をしています。〇〇して遊びたいという思いをもち、その思いを実現するためには、「何を」「どのようにしたらよいのか」を考えるようになってきました。

児童同士、児童と教師の関わり

遊びの経験が少ない児童は、**友達や教師の話の聞いたり、遊ぶ様子を見たり、まねたりして遊んでいます。**

遊んでいく中で・・・

友達と同じ場所に隠れたいAさん。友達と一緒に隠れると見つかりやすいので一人で隠れたいBさん。教師も話し合いに参加し、**お互いの思いを伝え合い、**まずは一人で隠れることになりました。その後、先に見つかったBさんが、Aさんが隠れている場所を見つけにくくしようとしていました。

遊びを通して、お互いの得意なことを生かしながら、助け合いながら遊ぶ姿が見られるようになってきています。

全身の身体活動

準備や後片付けを含めた遊びの中で、個々の課題に応じて“体のバランスをとる”“移動する”“用具を操作する”などの多様な動きを経験できるような環境の構成をしています。



広い空間に段ボール箱を設置し、隠れたり探したりすることで、車椅子から降り、転がる、歩く、はう、押すなどの動きを経験しています。また、体を動かす機会の少ない児童にとっては、運動量の確保につながっています。

教育専門監のコーナー

【「遊び」は「学び」、大切にしたい「10の姿」】

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 健康な心と体 | 2 自立心 |
| 3 協同性 | 4 道徳性・規範意識の芽生え |
| 5 社会生活との関わり | 6 思考力の芽生え |
| 7 自然との関わり・生命尊重 | |
| 8 数量・図形、文字等への関心・感覚 | |
| 9 言葉による伝え合い | 10 豊かな感性と表現 |

参考：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
幼稚園教育要領 総則より

【目指すのは、「主体的、対話的で深い学び」の実現】

周囲の環境に興味や関心をもって自分から働き掛け、見通しをもって粘り強く取り組む(主体的な学び)、友だちとの関わりを深める中で、自分の思いや考えを伝えたり、協力したりしながら考えを広げる(対話的な学び)、そして、遊びの中で、「見方・考え方」を働かせて対象と関わり、自分なりのやり方で、生活を意味あるものとして捉える(深い学び)、その実現を目指し、様々な遊びの中で蓄えられた学びの基礎や 10 の姿を大切に、遊びの充実を目指していきます。

【「遊び」の中に見る子どもの「学び」】

子どもたちは、「遊び」の中で、周囲の人や物に、興味や関心をもって関わり、多様に動いたり、想像力を働かせたり、操作したり、構成したりして「遊び」を楽しみながら、具体的な体験の中で様々なことを理解していきます。小学部では、遊びの指導を通して、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じて周囲に働きかける主体性や自分の気付きを試したり、遊びを工夫したりする創造力を育てています。自分で考え、判断して行動する力に加え、相手の気持ちを感じて、自分の気持ちを調整し、相手に合わせるコミュニケーション能力など、学習の基盤となる一人一人の「学び」や「姿」を大切に小学部の学習への滑らかな接続を目指す大切な時間となっています。

〈文責：二階堂 悟〉



◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部主任 佐藤 忠浩

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘一丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>